

◆授業設計のポイント◆

- ・ 生徒の学習状況を把握するための判断基準の活用
- ・ 学習の見通しを立てさせたり、成果を振り返らせたりするための Can-Do リストの活用

英語科学習指導案

学 級 2 年 5 組 (男子19名 女子17名 36名)

場 所 2 年 3 組 教室 (2 年 校 舎 3 階)

授業者 教 諭 増 田 千 星

A L T Roderick Macfarlane

1 単 元 NEW HORIZON English Course 2

Unit 2 A Trip to New Zealand

2 単元について

本単元は、ゴールデンウィークにニュージーランドへの旅行を計画していた一郎が、実際にニュージーランドを訪れ、現地の山や動物の紹介をするという内容である。文法事項としては [be going to + 動詞の原形], SVOO の文型, SVOC の文型が扱われている。それらを活用することで、近い未来の予定について説明したり、自分が調べた国や地域について描写したりすることができるようになっている。これらの文法事項を活用し、Starting Out ではベッキーと一郎がブラウン先生とゴールデンウィークの予定について会話し、Dialog では一郎が入国審査の係員と会話し、Reading for Communication ではニュージーランドの名所や動物を紹介する内容になっている。

本学級の生徒は、全体的に英語学習に対して意欲的である。休み時間等を利用して、ALT に積極的に話しかける生徒も多く、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする姿がよく見られる。男女仲も良く、ペア活動やグループ活動も活発に行うことができ、素直で明るい生徒が多い学級である。普段の授業においても表現活動に対する興味・関心は高く、言語活動は積極的に取り組んでいる。「書くこと」に関して、綴りや語順を正確に書くことが難しいと感じている生徒が多いが、英作文への関心は高く、書く力を高めたいという意欲をもっている生徒も多い。

指導にあたっては、本単元の特性である「説明する」「描写する」という活動を生かし、生徒に教科書の内容を読み取らせ、修学旅行について紹介する文を書かせたり、スピーチをさせたりしたい。今まで学習した表現や教科書の表現を参考にさせながら、それらを応用し、「修学旅行の予定」についてまとめさせることで、苦手意識のある「書くこと」の克服に繋げたい。また、Can-Do リストを活用した毎時間の自己評価を通し、自己の変容を確認させ、学習を進めさせたいと考えた。発表においては、常に聞き手がいることを意識させ、アイコンタクトやジェスチャーなど相手に分かりやすく発話するよう気を付けさせたい。聞き手には、アイコンタクトを駆使させながら、会話をしやすい雰囲気を作ることを意識させたい。また、聞いたり、話したりしたことを、書く活動につなげ、技能の統合を図り、コミュニケーション能力の基礎の育成を目指すと共に、自分の考えなどを発信していく力を育てたい。

3 単元の目標

- (1) 適切な時制を用いて、間違いを恐れずに英語でコミュニケーションを図ることができる。
- (2) 適切な時制を用いて、修学旅行について紹介するスピーチをすることができる。
- (3) 本文を読み取ったり、友達の説明を聞き取ったりして、その内容を理解することができる。
- (4) 修学旅行について紹介する文の意味・形・用法を知っている。

4 単元の指導計画（全7時間）

【Goal of Unit 2：修学旅行を紹介しよう。】（ は本時扱い）

※ Can-Do リストはトピック作文“My Life”に関するものを活用する。詳細は6(3)②参照

	主 な 学 習 活 動	技能の 統合	○ B 状況の生徒の基準になる文 □ 判断基準の活用（フィードバックの仕方）
第 1 時	- スキーマ形成 - 修学旅行の予定 - 主な観光地 - 小学校の修学旅行の思い出 - 単元の学習計画の確認 - Unit 2 の本文全体の概要把握	L ↓ s ↓ w	○ We went to Kumamoto 2 years ago. ○ We ate a lot of delicious foods there. ○ It was interesting. ○ We have a school trip in September.
第 2 時	- Starting Out の基本本文の練習 - Starting Out の新出語句の確認 - 本文の内容理解 - 修学旅行を紹介する簡単な英文の作成 - 個で書いた英文を使用して会話をし、グループで発表する。	W ↓ s ↓ l	○ 修学旅行の紹介文を書き、それを基に友だちと会話をする。 I am going to visit Nagasaki on a school trip. □ 活動が滞っている生徒には補足説明を加えたり、個別支援をしたり、ヒントカードを渡したりする。 ※ 詳細は、6(3)①判断基準参照
第 3 時	- 口頭英作文を用いた前時の復習 - Dialog の基本本文の練習 - Dialog の新出語句の確認 - 本文の内容理解 - 入国審査でのスキット作成 - ペアでスキットを作成し、グループで発表する。	w ↓ S ↓ l	○ SVOO の文型を用いて、入国審査でのスキットを作成して発表する。 Show me your passport, please. □ SVOO の文型を用いた入国審査でのスキットの間違いを書画カメラに写し、皆で考える。
第 4 時	- 口頭英作文を用いた前時の復習 - Reading for Communication 1 の基本本文の練習 - Reading for Communication 1 の新出語句の確認 - 本文の内容理解 - 修学旅行を紹介する英文の作成 1	R ↓ w	○ SVOC の文型を用いて、修学旅行を紹介する文を作成する。 Look at this picture. People call it “Heiwa Kinenzo.” □ 既習事項の中で使用できる表現を確認する。
第 5 時	- Reading for Communication 2 の基本本文の練習 - Reading for Communication 2 の新出語句の確認 - 本文の内容理解 - 修学旅行を紹介する英文の作成 2	W ↓ r	○ 今まで学習した表現を用いて、修学旅行について3文程度の英文を書く。 Now I am going to tell you about our school trip. We are going to visit Nagasaki. Look at this picture. People call it “Heiwa Kinenzo.” □ 既習事項の中で使用できる表現を確認する。
第 6 時	- 口頭英作文を用いた前時までの文法事項の総復習 - まとめと練習 - 修学旅行を紹介する文の作成 3 - 修学旅行を紹介するスピーチの練習	W ↓ s	□ スピーチ文を完成させる。 Now I am going to tell you about our school trip. We are going to visit Nagasaki. Look at this picture. People call it “Heiwa Kinenzo.” We are going to learn about war and peace in Nagasaki.

第7時	- 修学旅行を紹介するスピーチの発表 - 聞き手が分かりやすくするための読み方の確認 - 相互評価	r ↓ S ↓ I	☐ スピーチの発表をする。 「修学旅行の紹介」の発表 ☐ 英文を作成する際、既習事項の確認をする。
-----	---	-----------------------	--

5 単元における評価規準

I コミュニケーションへの関心・意欲・態度	II 外国語表現	III 外国語理解の能力	IV 言語や文化についての知識・理解
(言語活動への取組) ア 相づちをうったりアイコンタクトを駆使したりしながら相手の話に関心をもって聞こうとしている。 イ 適切な音量で繰り返し音読している。 ウ 間違えることを恐れず、積極的に修学旅行について話したり、書いたりしようとしている。 (コミュニケーションの継続) エ ジェスチャーや既習の表現をうまく利用して、修学旅行について紹介をしている。	(正確な音読) ア 正しい姿勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読することができる。 (適切な音読) イ 一郎の心情を考えながら音読することができる。 (適切な筆記) ウ 修学旅行を紹介するのにふさわしい表現を用いて書くことができる。 (適切な発話) エ 修学旅行を紹介するのにふさわしい表現を用いて相手に分かりやすく話すことができる。	(正確な聞き取り) ア 強勢やイントネーション、区切りなどの特長を捉えて聞き取ることができる。 (適切な聞き取り) イ 話されている内容から、友だちが紹介する修学旅行の発表について理解することができる。 (正確な読み取り) ウ 友だちが作成した修学旅行についての紹介する英文の大切な部分を正確に読み取ることができる。 (適切な読み取り) エ 感想を述べることができるように、友だちの修学旅行についての紹介文を捉えることができる。	(言語についての知識) ア 基本的な強勢やイントネーションなどの違いを知っている。 イ 修学旅行を紹介するための語句や文、文法などに関する知識を身に付けている。 ウ 入国審査に必要な応答の仕方を知っている。 (文化についての理解) エ ニュージーランドの名所や動物について理解している。

6 本時の実際 (2/7)

(1) 題材 Unit 2 A Trip to New Zealand

(2) 目標

ア [be going to + 動詞の原形] を含む文を用いた修学旅行を紹介する簡単な英文の作成に積極的に取り組むことができる。

イ [be going to + 動詞の原形] を含む文を用いながら、修学旅行について書くことができる。

ウ 本文の内容や友だちの発表の内容について理解することができる。

エ [be going to + 動詞の原形] の意味・形・用法を知っている。

(3) 授業設計の工夫

ア 生徒の学習状況を把握するための判断基準の活用 研究の視点4

評価規準【書くこと】		
[be going to + 動詞の原形] を含む文を用いて「修学旅行」についての紹介文を書くことができる。		
尺度	判断基準	判断基準に基づいた指導
B	ア 修学旅行について書かれている。 イ [be going to + 動詞の原形] を含む文が使用されている。 ウ 綴り、語順等が正確である。	【C状況の生徒への指導】 - 活動が滞っている生徒が10人以上いる場合には、1年次に作成したトピック作文“My Life”を想起させ、語順等を確認したり、全体で間違いを共有したり、補足説明を加えたりする。(一斉) - 活動が滞っている生徒が少ない場合には、個別支援をしたり、ヒントカードを個別に渡したりする。(個別)
	【予想される生徒の表現例】 I am going to visit Nagasaki.	

A	(Bに加えて以下の条件が1つ以上あてはまる。)	【B状況の生徒への指導】 ・ 修学旅行についてより詳しく説明する表現を付け加えるように促す。 ・ 修学旅行についての説明以外にも、自分の考えや気持ちを説明する文を作成するように促す。
	・ 2文以上書いている。 ・ 修学旅行についてより詳しく書いてある。 【予想される生徒の表現例】 I am going to visit Nagasaki on a school trip. We can eat delicious foods there. I like champon.	

イ 学習の見通しを立てさせたり、成果を振り返らせたりするための Can-Do リストの活用 研究の視点4

生徒に身に付けさせたい能力を明確化し、指導と評価の一体化を図るために Can-Do リストを活用することとした。本時においては、学習目標の確認をする際に、今まで学習してきたことと今から学習することを結び付け、これからの学習の見通しを立てさせるために Can-Do リストを活用する。また、終末時に Can-Do リストを活用しながら自己評価を行う。生徒は毎時間の自己評価を通し、自分の学習状況の高まりを把握することができ、学習意欲が向上され、自発的な学習を促されると考えた。以下は Unit 2 に関連のある Can-Do リストの一部である。

	学年 項目	第 1 学 年	第 2 学 年	第 3 学 年
Reading	本校独自の行事や授業に関すること	友だちが書いた“My Life”についてのトピック作文を読み取ることができる。	友達 が 書 いた “My Dream” についてのトピック作文を読み取ることができる。	友 達 が 書 いた “My Treasure” についてのトピック作文を読み取ることができる。
	黙読と概要理解に関すること	教科書の本文を読み、登場人物が何について伝えようとしているかなどの概要を捉えることができる。	まとまった英文を読んで、その概要を理解することができる。	鹿児島県の公立高校の入試問題と同程度の難易度の長文を50wpm以上のスピードで読み、概要を理解することができる。
	音読に関すること	教科書の本文を音読することができる。	教科書の本文を内容を理解しながら音読することができる。	教科書の本文をその内容に合わせて感情を込めて音読することができる。
Listening	本校独自の行事や授業に関すること	トピック作文 “My Life” の友達の発表を聞いて、理解することができる。	トピック作文 “My Dream” の友達の発表を聞いて、理解することができる。	トピック作文 “My Treasure” の友達の発表を聞いて、理解することができる。
	会話における聞き取りや技術に関すること	相手の話す内容に応じて、アイコンタクトを取りながら聞くことができる。	相手の話す内容を理解することができ、その内容について自分の意見を一言言うことができる。	相手の話す内容に応じて、適切な対応をとることができる。
Speaking	本校独自の行事や授業に関すること	トピック作文 “My Life” について友達に発表することができる。	トピック作文 “My Dream” について友達に発表することができる。	トピック作文 “My Treasure” について友達に発表することができる。
Writing	本校独自の行事や授業に関すること	トピック作文 “My Life” について3文程度の英文にまとめることができる。	トピック作文 “My Dream” について4文程度の英文にまとめることができる。	トピック作文 “My Treasure” について5文程度の英文にまとめることができる。

(4) 展 開

時間	学 習 過 程	主な学習活動	指導上の留意点と評価 ㊦ 基礎・基本の定着 ㊧ 興味・関心・意欲・態度の育成 ○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
5分	1 Greetings 2 Warm-up	1 日常会話を含んだあいさつをする。 2 ウォームアップをする。(ペア)	㊧ 元気よく英語であいさつをして、英語学習の雰囲気を作る。 ○ ワークシートを活用し、小学生時の修学旅行の思い出について質問し合う。 ※ Can-Do リストを活用し、学習の見通しをもたせる。
40分	3 Today's Goal 4 Target Sentence 5 New Words 6 Understanding of the Content 7 Reading Aloud 8 Activity 9 Presentation	3 本時の学習目標を確認する。 修学旅行について紹介しよう。 4 教師とALTとの対話を通して、基本文を理解する。 I am going to visit Oita on a school trip. 5 新出単語を練習する。 6 ブラウン先生とベッキーと一郎の会話の内容を読み取る。 Questions 1 Does Becky have any plans for the "Golden Week" holidays? 2 What is Ichiro going to do during the "Golden Week" holidays? 7 本文を音読する。 8 修学旅行についてワークシートに記入する。 I am going to go to Oita. ① [be going to + 動詞の原形] を含む文を用いて修学旅行について紹介する文を作成する。(個) ② 個で作成した英文をもとに会話の練習を行う。(ペア) 9 作成した英文を発表する。(グループ) ① 自然な会話になっているか確認する。 ② 発表者以外はメモを取りながら会話を聞く。 ③ 活動の自己評価に取り組む。	㊧ 学習目標を把握させ、意欲的に学習に取り組ませるようにする。 ○ ALTとの対話で [be going to + 動詞の原形] を含む文を使用し、現在形との違いに気付かせる。 ㊦ 基本文を習得・活用させるために口頭作文に取り組ませる。(電子黒板) ○ 音声と文字がつながるような導入をする。 ○ 黙読をさせ、内容把握のための補足説明を適宜行う。 ○ 内容理解を深めるための補足説明を適宜行う。 ◎ 本文の内容について理解することができたか。(Ⅲーウ) ○ 意味内容に注意しながら音読させる。 ※ 判断基準を基に、ワークシートに書かれた英文を見取る。 ※ 活動が滞っている生徒が多い場合には、全体で間違いを共有したり、補足説明を加えたりし、少ない場合には、個別支援をしたり、ヒントカードを個別に渡したりする。 ◎ 修学旅行について、英語で書くことができたか。(Ⅱーウ) ◎ [be going to + 動詞の原形] を含む文の意味・形・用法を知っているか。(Ⅳーウ) ◎ 積極的に英語での会話に取り組むことができたか。(Ⅰーウ, エ) ○ 聞く視点を明確にするためワークシートを活用させる。 ◎ 友だちの発表する修学旅行の内容について理解することができたか。 ※ Can-Do リストを活用し、自己評価に取り組ませる。
5分	10 Consolidation 11 Assignment 12 Greetings	10 本時のポイントを確認する。 11 次時の活動について確認する。 12 終わりのあいさつをする。	㊦ 本時の内容を整理させ学習内容を定着させる。 ㊧ 学習の見通しをもたせ、次時への学習意欲を喚起する。